

登録解体基幹技能者講習考査試験問題

(試験時間 60 分)

[注意事項]

- (1) 受講番号は、受講票で確認してください。
- (2) 問題は全部で 25 問です。
- (3) 解答する際は、別紙のマークシート解答用紙を使用してください。
- (4) マークシート解答用紙のみ回収します。
- (5) この問題用紙は持ち帰ってください。

受 講 番 号						

氏 名	(フリガナ)
	(漢字)

問題1 登録解体基幹技能者のメリットに関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 経営事項審査において「加点評価」(3点)の対象である。
- ② 地域によって違いはあるが、総合評価落札方式での「加点評価」が受けられる。
- ③ 地域によって違いはあるが、建設業者の「優良技能者認定」が受けられる。
- ④ 産業廃棄物処理業者の「優良技能者認定」が受けられる。

問題2 登録解体基幹技能者の役割に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 解体工事現場における施工管理・品質管理・原価管理・工程管理・安全管理・環境管理を行う役割
- ② 解体工事現場の状況に応じた施工方法を、発注者・元請へ提案・調整を行う役割
- ③ 解体工事現場内の整理整頓を行う役割
- ④ 後継者の育成を行う役割

問題3 登録解体基幹技能者の能力に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 解体工事のマネジメントをする能力
- ② 優秀な解体技能を有し、施工方法の提案及び施工計画を立案する能力
- ③ 手順書通りに重機を操作する能力
- ④ 解体工事の技能や技術の継承を考え、後継者を育成・指導する能力

問題4 登録解体基幹技能者講習の指導・教育の基本認識及び登録解体基幹技能者として求められる役割等に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 登録解体基幹技能者講習は、資格取得及び工事を施工する上でのスキルアップを目指すものである。
- ② 登録解体基幹技能者は、新入社員及び中途採用技能者に対し、指導及び教育を行うことが求められる。
- ③ 登録解体基幹技能者の経験及び知識による育成は、生産性の向上、適正な報酬につながる。
- ④ 新入社員育成のために適正な休日の確保をするのは、登録解体基幹技能者の役割である。

問題5 OJTを進める上で設定する教育のあり方に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① 実務を通じてスキルを習得するため、特定の教材やマニュアルなどは存在しない。
- ② 実務を通じてスキルを習得するため、各社同じスキルで同じ成果になることはない。
- ③ 実務を通じてスキルを習得するため、各社の人材の質や教育に対する熱量、社員同士のマッチング性によって教育効果が異なる。
- ④ 実務を通じてスキルを習得するため、各現場において、OJTの手法を見直す必要はない。

問題6 登録解体基幹技能者が行うOJT教育に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

- ① OFF-JTとは、研修ルーム等を用い、教育対象者に集合研修を行うことである。
- ② OJTとは、職場内訓練と訳され、実際の現場において実務を通じて知識やスキルを身に付けることである。
- ③ OFF-JTは、OJTより低コストで行うことができる。
- ④ OJTは、基本的に現場でその工程ごとに直接指導を行うため、理解度の確認ができる。

問題7 施工管理に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか**。

- ① 解体工事は、標準化が極めて難しい工事ではあるが、熟練者がじっくりと計画した解体手順で実施すれば、想定外の壊れ方をすることはない。
- ② 解体工事を経済的かつ安全に実施するためには、適切な施工計画を策定し、それに基づいた管理体制をもって施工する必要がある。
- ③ 国土交通省の検討委員会がまとめた解体工事における事故防止ガイドラインでは、事前調査による情報収集・事故防止対策を考慮した施工計画の作成が求められている。
- ④ 建物の構造、規模、改修や改造の履歴などの確認には、設計図書が重要な情報収集源となるが、保存されていないケースも多くあり注意が必要である。

問題8 施工管理における専門家の在り方に関する次の記述のうち、**最も適当なものはどれか**。

- ① 解体工事を熟知した設計者が必ず常駐しなければならない。
- ② 建物を熟知している設計者が、その建物の解体工事の施工計画書を作成しなければならない。
- ③ 建物の解体工法の選定や老朽化の影響などを考慮した解体工事の施工計画書、施工要領書から作業手順書にいたるまで、解体の専門家である解体業者が作成することはほとんどない。
- ④ 作業計画の良否によって企業の収益にも大きな影響を与えるので、施工計画は登録解体基幹技能者のみならず企業の能力を結集して行うべきである。

問題 9 解体工事の施工管理に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 解体工事は、関係法令に基づいて適切に対応することが求められる。
- ② 施工管理は、品質、コスト、工程、安全・環境の管理が基本となる。
- ③ 登録解体基幹技能者は、「より安全に」を満足する施工管理を行うことが重要である。
- ④ 建築の逆の手順で解体工事を行えば良いと考えることは、適切かつ合理的と言える。

問題 10 解体工事の工程表に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 解体工事の工程表は、バーチャート工程表を使用している場合が多い。
- ② 工程表には、月ごとの月間工程表や週ごとの週間工程表がある。
- ③ 大型現場であれば、月間工程表及び週間工程表を作成するのが望ましい。
- ④ 解体工事には、ネットワーク式工程表が最も使いやすい。

問題 11 解体工事における労働災害に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 労働時間超過の作業員がいたが、工程短縮のためそのまま勤務させた。
- ② 予定していた外壁解体が残ってしまったが、時間外労働になるので翌日の作業とした。
- ③ 台風接近中のため現場は閉所だったが、監視員と警備員には休日出勤を要請した。
- ④ 豪雨との天気予報であったが、現場は開所とした。

問題 12 解体工事の工程に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 解体工事の準備工事には、インフラ切断、事前調査、各諸官庁手続き等も含まれる。
- ② 仮設工事が別発注の場合でも、解体工事工程表には記載される場合がある。
- ③ 解体工事には、仮囲い、ゲート、朝顔などの養生も請負契約に含まれる。
- ④ 解体工事の工程表には、産業廃棄物のリサイクル工程も含まれる。

問題 13 床材取りこわしにおいて、解体作業員が1㎡あたり0.05人工の場合、解体作業員1日の一人当たりの施工量に関する次の数値のうち、**最も適当なものはどれか。**

- ① 10㎡
- ② 20㎡
- ③ 30㎡
- ④ 40㎡

問題 14 解体工事における工事費の構成に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 一般管理費には、本社経費・利益が含まれる。
- ② 有価材処理費には、鉄・アルミ・持込・運搬・処理費が含まれる。
- ③ 直接仮設費には、足場費・養生費・山留め・作業構台工事費・運搬費が含まれる。
- ④ 仮設事務所・休憩所・トイレは現場経費となる。

問題 15 原価管理の実務に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 日常的管理では、作業内容・施工量・稼働重機・副産物の搬出量等を作業日報に記録する。
- ② 実際原価と実行予算の差異の原因分析は、現場完了時だけ行えば良い。
- ③ 日々の管理はその日の施工実績を把握するものであり、工事全体の流れを予測することはできない。
- ④ 週間・月間の単位で作業日報を集計し、原価管理表を作成して検討する。

問題 16 解体工事における品質管理と、総合的品質管理の必要性に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 騒音・振動は、管理図を用いて品質特性値の変化を追い、許容値の管理を行う。
- ② 騒音・振動に関する品質特性値は、工夫によって小さくすることはできても、ゼロにすることはできない。
- ③ 総合的品質管理を進めるうえでは、登録解体基幹技能者が中心になるので、経営者との連携は不要である。
- ④ TQCにおける品質管理だけに限定せず、経営戦略へ適用した全社的品質管理がTQMである。

問題 17 解体工事の品質管理のために作成する作業標準書に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 若手からの提案を採用して、作業標準書を修正した。
- ② 作業標準書に基づいて、新規入場者の既往症を確認した。
- ③ 現場で手順が変更となったので、作業後に作業標準書を修正した。
- ④ 作業標準書に基づいて、熟練作業者が工具を点検した。

問題 18 解体工事の品質管理の手法に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① ブレーンストーミングを行うに当たり、経験の浅い若手の意見も採用する。
- ② 特性要因図作成に当たり、登録解体基幹技能者がファシリテーターとなり、ブレーンストーミングを行う。
- ③ ヒストグラムは、様々な要因と特性を視覚的に把握することができる。
- ④ 解体工事において品質上問題になる特性と、それに関係する要因が因果関係にある。

問題 19 建設業における労働災害に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 建設業での死亡災害のうち、墜落を要因とするものの比率が最も高い。
- ② 建設業における労働災害による死亡者数は、全産業の3割に及ぶ。
- ③ 建設業の労働災害発生件数は減少しているが、これは工事量の減少が原因である。
- ④ 建設業は労働集約型であるので、装置型産業よりも安全対策が難しい。

問題 20 解体工事の安全衛生管理に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① 事故や災害を防止するためには、事前に打合せ等を綿密に行ったうえで作成した解体作業計画が必要となるが、実際の解体現場ではその計画を基に作業する必要はない。
- ② 解体作業において、壁倒し工程は非常に危険の伴う作業なので、作業主任者、重機オペレーター以外にも作業監視者を配置しておくことが望ましい。
- ③ 廃材等を投下するための開口部周辺には、転落及び飛散防止対策を講じ、全てシート等で塞ぎ養生をしておくことが安全性向上のため必要となる。
- ④ 階上解体の際の床補強サポートの本数は、経験則や感覚ではなく、構造計算などの根拠のもとで設置しなくてはならない。

問題 21 作業主任者の配置が必要な作業に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- ① コンクリート破砕器を用いて行う破砕の作業
- ② コンクリート造の工作物(高さ5 m以上)の解体または破壊の作業
- ③ 掘削面の高さが3 m以上となる地山の掘削作業
- ④ 特定化学物質を取り扱う作業

問題 22 解体工事における共通仮設の資材に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 作業員詰所、仮設トイレ等は、作業員がより良い環境で作業が行える様に日々清掃し、衛生を保つことが大切である。
- ② 作業員詰所、仮設トイレ等を設置する際は近隣住民への配慮、現場の作業環境に適した場所を検討する。
- ③ 仮囲いの設置は、工事の進捗状況や安全対策、周辺環境への配慮から計画的に実施することが重要である。
- ④ 共通仮設については、建物本体の工事とは直接関係が無いため、点検や整備を行う必要はない。

問題 23 解体用重機の亀裂点検に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① ロングブームやアタッチメントの破損の多くは、金属疲労による亀裂から発生する。
- ② 小さな亀裂のうちに見つけることで、重大事故を防ぐことができる。
- ③ 亀裂の大小によって修理費用は変わらないが、こまめにチェックすることが重要である。
- ④ 接合部の亀裂をチェックするには、グリスアップ時に点検するのがよい。

問題 24 石綿含有工作物の事前調査に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 一部の特定工作物の解体・改修を行うときは、「工作物石綿事前調査者」の有資格者による石綿等の使用の有無を調査する必要がある。
- ② 特定工作物の中に「送電設備」も含まれる。
- ③ 「特定建築物石綿含有建材調査者」の有資格者は、新たに「工作物石綿事前調査者」の資格を取得する必要はない。
- ④ 特定工作物の中に「風力発電設備」は含まれない。

問題 25 太陽光パネルに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 太陽光パネルは、取り外し後にも感電の危険性がある。
- ② 太陽光パネルの取り外しは、手作業、重機作業のどちらでも危険性はない。
- ③ 太陽光パネルの処分は、管理型最終処分となる。
- ④ 太陽光パネルの処分・リサイクルには、パネル含有成分表が必要となる場合がある。